『國民新報』1939年8月6日

　―主張―　他人への禮儀

　はからのとばれた。は一らしいことであるが、のをすることしい。とふのははをてるとふが、にするのをらせるからである。はをらないんだ、それだからいにをめねばならないとふ[[1]](#footnote-1)のこそ、にはしいものである。

　にいてはを、、、、の五ツにして、をとんでるのであるが、でもこのでへないとふ。一とは一がのはにしてのや[、]のをふのであつて[、]あつてめてやのととがされるのであり、このととがされてめてやのととがられるのである。をくことをとふのであるがのまりにはととがふのであらう。これにを『くにをてし、これをしくするにをてすればあり、しかじか』とあるである。ととによつてやつとめされるでは一にはなりない。がによつてらめてこそ、とははれるのだとふのがのせられたなのである。

　の々は、、のにいてもしてしないとははれない[[2]](#footnote-2)。むしろのがいにれてるとるのがしいのではなからうか。これはにづべきことでありふべきことであるとわねばならぬ。してやち一にするにいては一すべきだとふ。ところがののいはらぬにしてはどのをじない。のはきてとつたなであらう。だてなことである。てのは、るもらぬも、がであるとふこそましいもので、これさえあればおのづとはられることであらう。とはののあらはれであるから。

1. 『同胞に寄す』では「謙抑」が「謙虚」に代わっている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 「間然しないとは云はれない」は『同胞に寄す』では「間然たるものがないとは云はれない」に代わっている。 [↑](#footnote-ref-2)